



一般社団法人セーブ・ザ・リーフ



生物多様性を支えるサンゴ礁の危機

世界のサンゴ礁の総面積は 60 万平方キロメートル。地球表面のわずか 0.1%の面積程度でありながら、世界の海洋魚種の 25%、約 9 万種もの生物が生息しています。サンゴ礁は地球の表面積の 0.1%のサンゴを中心とした生物が長い間かかってつくった地形です。周辺では昔から漁業も営まれ、人々の生活と深いかわりが育まれてきました。

複雑で細かい空間をつくりだすサンゴ礁は海の小さな生き物に隠れ場所を提供します。さらにサンゴと共生している褐虫藻は、光合成によって海の小動物や魚類への餌資源となる有機物を生産します。そしてサンゴ礁に生息する小さな生き物を餌とする大きな魚やエビなども集まるので、多様な生物群集がうまれます。こうしてサンゴ礁は海の多様な生物の命を育む場として重要な役割を担っているのです。

またサンゴ礁は海の生き物だけでなく、わたしたち人間の生活にも恩恵をもたらしています。世界の海洋魚種の 25%が生息するサンゴ礁は漁場として多様な水産物を提供し、世界中で 5 億～10 億人もの人の食糧源となっています。さらに台風の高波を弱めるなど、天然の防波堤としての役割もあります。美しいサンゴ礁は観光資源となり、その豊かな生態系は文化・環境教育の場にもなっています。



ところが、そのサンゴ礁を取り巻く状況は近年において大きく変化しているのです。

世界のサンゴ礁の 58%が潜在的にわたしたち人間の活動（沿岸開発、生物資源の乱獲、海洋汚染、森林伐採や農地開発に起因する表土の流出など）によって脅かされているという調査報告もあります。また、温暖化等による大規模な白化現象や、台風によるサンゴ礁の破壊、食害動物による被害などもサンゴを死滅させる原因となり、サンゴ礁の存亡は国内でも各地で深刻化しています。



社団法人について

地球温暖化をはじめとした人間活動に起因する環境ストレスによって、サンゴ礁は減少、衰退していますが、そのサンゴ礁を人間の関わりによって守り、再生できるものとわたしたちは信じています。それには、まずは実はあまり知られていないサンゴ礁の生態系や、危機に瀕している実態を発信し、理解を深めることが大事と考えます。サンゴ礁について知ることは、サンゴを守るための直接的な環境活動へ参加する第一歩と考えるからです。

当社団法人は、サンゴ礁を守り再生する活動の啓蒙及び国内外への情報提供してまいります。そしてサンゴ礁を再生するために、サンゴ礁の養殖、海への植え付け活動支援のための会員組成並びに寄付集めを国内外で行ってまいります。

100 年後も美しいサンゴ礁を失わないために、わたしたちが今できることを考え、実践しそれを次世代に継承してまいります。その共感をさまざまな媒体と通じて広げ、同じゴールを目指す仲間を呼び掛けていきます。

社団概要

登記所在地 〒108-0072 東京都港区白金 2-7-12

連絡先 info@savethereef.jp

設立 2023 年 6 月 05 日



理事	代表理事 麦野 路易
	理事 金城 寿気也
	理事 福田 朋夏（プロフリーダイバー）
監事	麦野 豪（オフィス麦野 代表）
アドバイザー	金城 浩二（さんご畑 代表）
最高顧問	デヴィ・スカルノ（アースエイドソサエティ 代表理事）
評議員	佐藤 有美（株式会社 経済界 代表取締役社長）
	田中 美佳（社会福祉法人 松風会 副理事長）
	都筑 多佳恵（株式会社 ティースタイルマネージメント 代表取締役社長）
	伊藤 美智子（株式会社 memento 代表取締役 & コンテンツプロデューサー）
	干場 義雅（株式会社 スタイルクリニック 代表取締役社長）



社団法人の活動

1. サンゴ礁を守り再生する活動の啓蒙及び国内外への情報提供

サンゴ礁の保護、再生を啓蒙するためのイベント、セミナー、講演会等の企画、運営、開催します。

2. 養殖サンゴのボランティア

サンゴ養殖業務で SDGs（持続可能な開発目標）にボランティアで貢献したい方を国内外から募集します。



3. 養殖サンゴの移植

沖縄読谷村のさんご畑にて行っている、養殖サンゴ活動を支援し、養殖サンゴの移植するための寄付金集めを行います。(複数株可)

個人会員：1 株 3,500 円

法人会員：30 株 105,000 円



社団法人への支援

- 法人で寄付する： 法人寄附、Web や SNS での共同キャンペーン、CSR のイベント開催、寄附付きコラボ商品の制作等、さまざまな支援方法で支援できます。
- 個人で支援する： 会員として継続的な支援をはじめ、スポットでの支援も受け付けております。

みずほ銀行 銀座中央支店 普通預金 3115390 シュレフザリーフ

“さんご畑”について

- 金城浩二氏が代表を務める「さんご畑」は陸上の小さな海。30 万株のサンゴを育てることができる日本最大級のサンゴ養殖施設です。
- 特別採捕許可により採捕されたサンゴを増やし、増えた分の養殖サンゴだけを移植に利用しています。
- 養殖サンゴを岩盤に固定する方法に“さんご畑”は化学物質を一切使わない固定方法として、乾燥ヘチマを隙間に埋め込むという方法をとっています
- 移植をしたサンゴは約 2 年の成長を経て、卵を産むようになります。
- 株分けをした養殖サンゴが、移植後に産卵を確認した例というのは、世界で初めてのことでした。

https://drive.google.com/file/d/10Wj0oNIddyMilgbC30qxqn3uTjLNIzKP/view?usp=share_link